

参入市町村名	大分県宇佐市	
法人等名（業態名）	宇佐オーガニックファーム株式会社	
参入の種別	農業生産法人	
農業部門の概要	栽培作物	大麦若葉、水稻、麦、大豆
	経営規模	38ha
	雇用者数	7名
地域の概要		
参入の動機、きっかけ、参入の経過など	<p>弊社の親会社は、青汁メーカーの日本薬品開発株式会社で大分県北部地域で主原料の大麦若葉を地域の生産者の方々へ委託栽培をしてきました。近年生産者の高齢化や担い手の減少が感じられる中、将来に向けた安定供給や安全な原料作りが必至と考えられました。このため日本薬品開発株式会社の原料生産部門として弊社を設立し、生産者のフォローと原料安定供給を行うこととしました。</p> <p>また参入当時は、一般企業の農地利用ができなかったため、宇佐市と相談し特定法人貸付事業を利用し農業への参入を行いました。平成 22 年 4 月に農業生産法人「宇佐オーガニックファーム株式会社」として独立し、現在に至っています。</p>	
農業経営（農業事業）の内容	<p>農業事業の主体は、親会社の主原料である大麦若葉で、栽培面積は約 23 ヘクタールとなります。その他ほ場活用として水稻 5 ヘクタール、小麦 2 ヘクタール、大豆 5 ヘクタール、大麦 8 ヘクタールを栽培し、味噌や麦焼酎、うどんなどの加工品を委託製造しています。</p>	
農産物の販売状況	<p>主要生産品の大麦若葉は、親会社との契約栽培で全数納品となります。その他栽培品の米、大豆は、生産形態が有機栽培であり、健康食品店等に販売しています。また自社栽培の米、大豆、大麦を使用した加工品(味噌、焼酎)を同様に販売しています。売れ行きとしては、少しずつですが拡販の傾向にあります。</p>	
農業参入にあたって苦労したこと	<p>参入に当たっては、特定法人貸付事業を利用したのですが、利用可能な農地の殆どが耕作放棄地的な農地で、耕作ができるまでかなりの整備が必要となりました。また契約可能な農地を探すことに時間を要しました。</p>	
現在の課題、問題点	<p>現在栽培ほ場が宇佐市、中津市及び豊後高田市の 3 市に分散しており、作業の移動や管理に時間が掛かり、ロスが大きい。また栽培環境が大麦若葉栽培に適さないほ場も多いため、栽培品目の検討やほ場の集約が必要と考えられる。</p>	
農業参入で良かったと思う点	<p>農地の契約や活用の範囲が広がり、確保が容易になりました。また農業生産法人であるため地権者の方々の信頼も得やすくなりました。</p>	
今後の展開方向、行政や関係機関に望むこと	<p>現状収入の殆どが大麦若葉からのものとなっている。今後の計画として水稻などの収入増加や加工品の販売増強を企画し、大麦若葉の収入比率を下げゆく。また農地の集約、設備の適性を図り、製造原価を下げ収益改善を図る。</p> <p>現在弊社は、有機 JAS 認定を取得し生産活動を基本としていますが、認定取得に適したほ場(特に畑地)は山間部に多く、土作りに費用と時間がかかりますので、容易に使える補助が有ればと思います。</p>	